

巻頭言

教育研究環境の充実に重点を

学校法人明倫学園 理事長
古田 正憲



本学の紀要、明倫歯科保健技工学雑誌は平成9年開学年度と同時に創刊され、今回で第3巻が発刊されることとなりました。査読制度のある学術雑誌としてその内容もますます充実度を増し、「歯科技工学」、「歯科衛生学」確立に向けた意欲的な取組みにひとしお感慨深いものがあります。また、このように教育研究活動の成果を公開することは外部の評価を仰ぐ意味でもきわめて大切なことと考えております。

さて、本学は創立者前理事長木暮山人先生による「人格の陶冶」「知識と技術の修得」「社会への医療技能の還元」を建学の理念として歯科技工士学科、歯科衛生士学科の二学科を擁する我が国最初の大学として開学し3年目を迎えます。前身の歯友会歯科技術専門学校創立に遡れば41年の佳節を迎えることになります。このような時期に木暮山人先生を失ったことは図り知れないものがありますが、歯科医療技術分野の学問的探究と指導的役割を担える人材を養成する大学を目指し、建学の理念を再確認すると共に教育研究環境の整備充実と教育理論の開発・実践に特段の努力を傾けなければならぬと決意を新たにしております。

今日、わが国ではこれまでどこの国も経験したことのない少子高齢社会を迎えております。そして、今や人の寿命の長さにとどまらず生命の質が強く求められる時代にいたり、医療は疾病の治療だけでなく予防や介護・福祉、健康までも含めた対応や医療内容の高度化に即応でき人材が求められております。医療職として歯科技工士、歯科衛生士には、今まで以上により高度な各専門での知識や技術、患者の立場にたてる教養を身につけることが必要になっていることから、本学ではこのような強い社会的要請に応じて新時代の担い手となる優れた資質の歯科技工士、歯科衛生士や指導者となる技術者を世に送りだせるよう、昨年の4月、歯科技工士学科には生体技工専攻を、歯科衛生士学科には医療衛生専攻、保健言語聴覚学専攻の3専攻科を新設いたしました。その2年間の課程で学際領域も含めた高度な学術や臨床実践能力の修得、専門研究とともに、この度生涯学習への対応や科目履修生制度も導入いたしました。また、これらの分野の優秀な専任教員を養成するための学内外の研究支援や産学共同研究支援も重要な柱とし推進しているところであります。一方、今後はこのような教育研究活動の組織的・体系的な整備が不可欠であることから学内にプロジェクトを組織し専門研究分野の選定、新教育システム、教育研究施設、財政、専任教員の配置等について諮問したところであり、答申を期待しているところであります。

歯科医療技術者の養成教育は国によって様々ですが、米国、カナダ、英国では既に学士号の取得が可能な高いレベルの教育が行われている教育機関や制度があるという報告も受けております。本学においても世界水準の教育研究、国際貢献のできる人材の養成を目指し教育研究環境の整備充実に努める所存であります。

今、新時代に対応して従来の枠を超えた大きな変革の時期を迎え、その中で新しい医療システムを支えていく医療職の高度な技術と患者の心が解かる医療技術者の養成が必要です。医療職の教育には技術面の修得のみならず精神面の充実が重要となっております。

現在、地域医療や国際舞台の第一線で活躍している多くの先輩に続き、自らの仕事に誇りを持ち、プロフェッショナルの道に耐え得る人材を送りだせるよう心から願うところであります。今こそ法人与教学相携え、21世紀の新しい歯科技工士、歯科衛生士の職能を支える基盤科学が教職員、卒業生、学生諸君の研鑽努力により研究活動の中で具体化され専門分野が確立されていくことをおおいに期待し、巻頭の言葉といたします。